社　会　科

社会と関わる力の育成を目指して

～思考力・判断力・表現力の育成を目指した活用の在り方～

附属函館中学校　　阿　部　智　子，郡　司　直　孝

Ⅰ　はじめに

平成 20 年度告示学習指導要領が完全実施と同時に，これまでの成果と課題を見直す時期となってきている。文部科学省第２期教育進行基本計画では「社会を生き抜く力の育成」として生きる力の確実な育成が最初に述べられている。社会はさまざまな情報で満ちあふれている。その情報に流されることなく，自らの考えのもとで行動する力が必要なのではないだろうか。これは社会科における目標である公民的資質の基礎の育成に他ならない。情報が満ちあふれる社会の中で自分で考え，判断し，行動する力を社会科を通して少しでも身につけさせたい。そのために資料を読み取る力の育成と，読み取った事項の関連性を考察するような課題の設定を通して思考力・判断力・表現力の育成を図っていきたい。

Ⅱ　研究の経過

昨年までは「社会を実感できる授業を目指して」として，主に思考力に焦点を当てて研究実践を進めてきた。平成 23，24 年度では国立教育政策研究所の学習評価に関する研究指定校として，主に評価を中心として学校研究が進められてきた。平成 23，24 年度の主な研究内容については以下の表に示す通りである。

研究年度	主　な　研　究　内　容　共通主題「社会を実感できる授業を目指して」
平成 23 年度	パフォーマンス課題とその評価を生かして思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。
平成 24 年度	思考判断のプロセスを可視化し，これを評価することで思考力・判断力・表現力等の向上を目指す。

社会科では２年間を通じてと評価の面から思考力・判断力・表現力の向上によって社会科での学びと現実社会とのつながりを実感させることを目指し，研究を進めてきた。平成 23 年度は単元全体を貫く課題（最終課題）を設定し，そこに至るまでに段階的に小課題を設置した。それによって

- 小課題ごとに生徒の取組状況を評価する。
- 小課題ごとのわかったこと（事象・思考の結果）の組み合わせを図で表現させることで思考の状況の可視化を図る。

こととし，それらをもとに生徒個々の思考力・判断力・表現力を向上させようとした。

平成 24 年度は

- 小課題での評価をもとにしたグループ編成

をおこない，意図的な編成のグループで話し合い活動を行うことを通して，個々の思考力・判断力・表現力の向上を目指した。

また定期テストでの思考力・判断力・表現力の適正な評価をめざし，定期テストの問題の工夫・改善をおこなった。

これらにより，生徒個々の躓きの状況や授業構成を把握し改善を図ることができた。また評価をもとにしたグループ編成により，他者に説明することで自分の思考経過や結論を表現したり，他者の思考をヒントに自分の思考を深めることで，それぞれが思考力・判断力・表現力を向上させることができた。

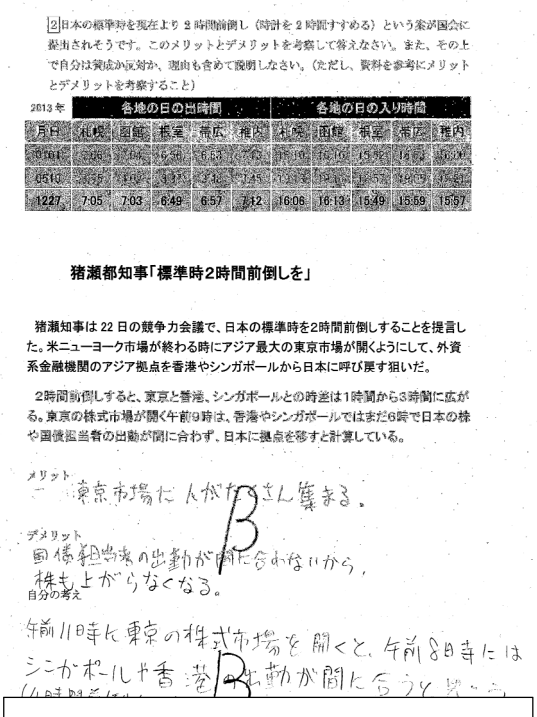
この２年間の評価からの実践を通して，思考力・判断力・表現力と技能との関わりが新たな課題として生じてきた。これらの実践はこちらから必要な要素（資料や事象）を提示し、その関連性の考察と表現に焦点をあてている。思考力・判断力・表現力の向上という点では一定の成果が見られたが、思考に必要となる要素の選択（資料活用の能力・資料を活用して思考する）の点では不十分な実態が見えてきた。

Ⅲ　本年度の研究

今年度は主題を「社会と関わる力の育成をめざして」とした。これは社会参画の意識を高め，学習したことが現実社会の中で生かせるような力をより身に付けさせることを目標としている。今年度は資料活用の能力の育成と資料を組み合わせて考察する力（思考につながる活用）の育成を中心に研究を進めていきたい。それによって思考力・判断力・表現力の中でも，必要とする要素を見付けて関わりについて考察（思考）する力を向上させたい。

Ⅳ　教科研究仮説

> 資料を適切に読み取り，利用する力（資料活用の能力）を向上させ、この力を利用し，読み取った事象の関連性を考察させることで思考力・判断力・表現力の向上を図ることができる。


2日本の標準時を現在より２時間前倒し（時計を２時間すすめる）という案が国会に提出されそうです。このメリットとデメリットを考察して答えなさい。また、その上で自分は賛成か反対か、理由も含めて説明しなさい。（ただし、資料を参考にメリットとデメリットを考察すること）

2013年

	各地の日の出時間					各地の日の入り時間				
月日	札幌	函館	根室	帯広	稚内	札幌	函館	根室	帯広	稚内
0101	7:06	7:04	6:58	6:53	7:20	16:10	16:10	15:55	16:00	16:00
0510	5:37	5:40	5:35	5:34	5:45	17:34	17:34	17:25	17:27	17:31
1227	7:05	7:03	6:49	6:57	7:12	16:06	16:13	15:49	15:59	15:57

猪瀬都知事「標準時2時間前倒しを」

猪瀬知事は22日の競争力会議で、日本の標準時を2時間前倒しすることを提言した。米ニューヨーク市場が終わる時にアジア最大の東京市場が開くようにして、外資系金融機関のアジア拠点を香港やシンガポールから日本に呼び戻す狙いだ。

2時間前倒しすると、東京と香港、シンガポールとの時差は1時間から3時間に広がる。東京の株式市場が開く午前9時は、香港やシンガポールではまだ6時で日本の株や国債担当者の出勤が間に合わず、日本に拠点を移すと計算している。

メリット
一 東京市場だんだんたくさん集まる。
B
デメリット
国債担当者の出勤が間に合わないから，
株も上がらなくなる。
自分の考え
午前11時に東京の株式市場を開くと、午前8時には
シンガポールや香港 B 出勤が間に合うと思った。

思考力・判断力・表現力を見取るためのワークシート解答例

１．資料活用の能力の向上について

社会科では統計資料や歴史的文献，地図などさまざまな資料を扱う。そこには多種多様な情報があり，その情報をできる限り正確に読み取ること，またその情報を利用することが必要となる。課題の対象となる事象が正確に理解できないと，そこからの思考の過程が正しかったとしても結論にずれが生じてしまう。そこで，図１の思考力・判断力・表現力の設問について１学期当初２年生を対象に，実施した。その際に次のワークシート例のような回答が多く見られた。

「東京市場」「金融機関」「株式市場」「日の出」「日の入」等の語句については口頭で説明し，その他意味が理解できない語句については質問を受け付け，用語の解説をおこなった上で時差の日常生活への応用を思考させる課題として実施した。

例のように香港・シンガポールの時差が現在よりも広が

るとどうなるか，という説明資料の理解が不足しているため，東京市場にシンガポールなどから人が移ってくるという点に誤解が生じ，メリット・デメリットの回答がずれ（資料を正確に読み取る部分），さらに自分の考えが事象に合わないものになってしまっている生徒が複数見られた。

これは，思考の中でも事象を読み取る力が不足していると考えられる。これに関して岩田一彦は，広義の思考力として事実判断・推理（狭義の思考）・価値判断（狭義の判断）の三つに分類されるとし，「事実判断，推理の思考は，科学的追求によって法則性や概念に至る思考である。価値判断を行う思考は，主体の経験・知識の蓄積によって，思考結果が違うものである。主体の未来予測の結果，選択される判断である。」[1)]としている。資料を正確に読み取り，把握する力が不足していると，最終的な結論に至る段階がいくら論理的であっても，結論がずれてしまう。これは正しく思考力・判断力・表現力が向上しているとは言いがたい。

そこで，思考力・判断力・表現力の向上のために，「資料活用の技能」を「資料を適切に読み取り，判断・利用する力」と捉え重点をおいて研究を進める事とした。また，

- 資料を活用する問題解決的な学習の設定（本校研究の重点①教科での基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習の工夫・開発及び実践と関連）

についても取組を行うこととした。

２．読み取った事象の関連性の考察について

昨年までの実践に引き続き，思考力・判断力・表現力の向上を目指して

- 事象の関連性を見いだし，表現する活動の設定
- 思考の道筋のモデルとして４ＱＳ（総論参照）の利用

を行うこととした。

また，４ＱＳ等のワークシートを行う際に

- 時間がかかっても最後まで記入させることで自らを研鑽させる力の向上を目指す。（本校研究の重点②自らの思考や感情を律する研鑽する力の習得を目指した教科における学習指導の工夫・改善との関連
- ４ＱＳの段階ごとに評価をおこない，昨年同様に躓きへの支援と授業構成の見直しに利用する。（本校研究の重点③質の高い教育を保証するための検証改善サイクルの整備との関連）

こととした。

事象の関連性を見いだし，表現する活動を小原友行は，思考力・判断力・表現力を育成するための活動の一つとしてあげ，「『事象の特色や事象間の関連を説明する』とは，社会的事象や問題に対して『なぜ，どうして』と問いかけ，その背後にある関係性を見つけ，それによって科学的に説明する活動である。（中略）その過程は次のようになろう。①問題把握②仮説の設定③仮説の論理的帰結の推論④資料の収集・分析⑤仮説の検証」[2)]と述べている。事象を正確にとらえ，なぜそのような事象が起きているのか問うことで事象に対する思考を深めていく活動は，社会に参画するために必要な力の一つではないだろうか。

また思考の道筋のモデルとして４ＱＳを使用した。４ＱＳには課題となる事象を正確にとらえ表現する段階と，事象間の関連を考察して仮説を立てる場面が設定されている。これを利用し，評価することで個々の力の向上に役立てたい。さらに４ＱＳには矢印で思考の道筋が示されている。これを思考の道筋のモデルとすることで，根拠をもった仮説を表現させ，思考力・判断力・表現力の向上を目指すとともに，どのような道筋が社会科において有効なのか検証したい。

Ⅴ　研究仮説に基づく実践例

１．事前の取組

①これまでの学習で習得した資料活用の技能

雨温図・分布図等の作成と特徴の読み取り，文字資料（文献）の読み取り，地図・資料図の読み取り，４ＱＳの利用方法

②アンケートから見る生徒の状況

「基礎的・汎用的能力に関するアンケート結果」（総論を参照）のうち，本単元に関わる部分は下のようになっている。

<table>
<tr><th colspan="2">人間関係形成・社会形成</th><th colspan="2">課題対応</th></tr>
<tr><td>他者の個性を理解する力</td><td>38</td><td>情報の理解・選択・処理等</td><td>30</td></tr>
<tr><td>他者に働きかける力</td><td rowspan="2">32</td><td>本質の理解</td><td rowspan="3">37</td></tr>
<tr><td>コミュニケーションスキル</td><td>原因の追及</td></tr>
<tr><td>チームワーク</td><td rowspan="2">35</td><td>課題発見</td></tr>
<tr><td>リーダーシップ</td><td>計画立案</td><td rowspan="3">35</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">生徒数（３９）</td><td>実行力</td></tr>
<tr><td>評価・改善</td></tr>
</table>

この実践をおこなった学級は，情報の理解・選択・処理等に苦手意識を感じている生徒が比較的多い。

③年度当初における思考力・判断力・表現力の状況

２年生４月に実施した「世界の諸地域の調査レポート」では自分の興味・関心に基づいて選択した地域について調査し，以下のような思考力・判断力・表現力を問う課題に取り組んだ。

＜課題＞選択した地域の歴史・産業・文化の特徴について資料を用いて説明し，そこから考えられる地域の課題を述べなさい。

評価規準	%
資料に基づいて特徴を述べ，さらにそれらを根拠とした課題を述べている。	20.5%
資料に基づいて特徴を述べているが，考察した課題と結び付いていない。	66.7%
資料を用いずに特徴を述べている。	12.8%

あくまでも，資料が根拠になっているか，という視点で評価している。考察の結果となる地域の課題を論述する部分は全員が記述しており，直感的に結論に行き着くのだが，あらためて根拠となる事象をあげて，論理的に説明することに対しては，苦手とする生徒が多いことが見とれる。同様の傾向が他クラスでも見られた。

２．実践例　１．第２学年歴史的分野「田沼の政治」

（１）資料を活用する問題解決的な学習の設定

①本時の課題と目標

本時の課題「田沼の政治は善政か，悪政かジャッジをしよう」
本時の目標
- 田沼の政治について，資料に基づいて善政か悪政か判断し表現することができる【思考・判断・表現】
- 田沼の政治の様子を資料から読み取ることができる【資料活用の技能】

田沼の政治は，歴史学者の中でも評価が分かれる。大正期には悪政であるという論が主であったが，昭和期には善政と評価する者も多くなってきた。これは悪政であると伝える資料の信憑性や田沼の政策をどのように評価するかによって判断が分かれる。そこで資料に基づいた判断ができることを目標に複数の資料を活用する問題解決的な学習として設定した。

②単元の構成（３時間扱い）

課題１
田沼の政治の政策を整理しよう。
田沼の政治で行われた政策の内容とその結果を整理する。

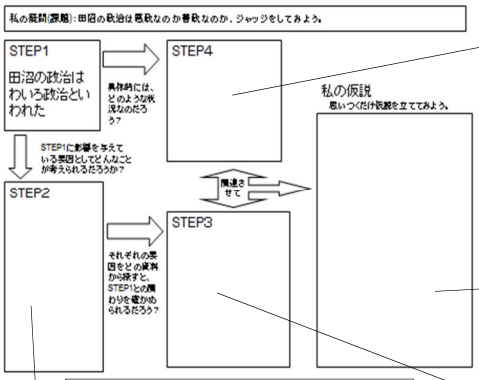
課題２
田沼の政治は善政か，悪政か資料をもとに判断しよう。
４ＱＳを利用して，自分の判断を仮説としてまとめる。（本時）

課題３
それぞれの仮説を交流し検討する。

（２）読み取った事象の関連性の考察について

４ＱＳを利用し，松平定信の「宇下人言」の一部を基本資料とし，善政か悪政かの判断を行わせた。

①本時で使用したワークシート＜４ＱＳを利用したワークシート＞



STEP４
松平定信「宇下人言」の一部からわいろ政治の状況を読み取らせるとともに，資料の信憑性も考慮させる。（現状を資料から読み取らせる段階）

私の仮説
善政か悪政か，自分の判断を資料に基づいて考察させる。（事象の関連性を見いだす段階）

STEP３
わいろ政治と言われる原因になりそうな出来事や政策を記入させる。
（適切な資料を選択する段階）

STEP２
これまで学習した田沼の政治の政策を記入させる。

３．実践例２．第２学年地理的分野「世界の人口の分布と変化」

（１）資料を活用する問題解決的な学習の設定

①本時の課題と目標

本時の課題「人口はどのようなところに集中しているのだろう。」

本時の目標

- 世界の人口の分布について，自然環境，食料生産，社会や経済の情勢などの影響とからめてその特徴を読み取り，表現することができる。【資料活用の技能】
- 世界の人口の分布についてその偏りの特徴を理解することができる。【社会的事象に対する知識・理解】

人がどこに集中して住んでいるのか，には自然環境，食料生産，社会や経済の情勢が影響している。またそれらは単独で影響するわけではない。複数の要因が重なってその場所に人が集中しているのである。自然環境，食料などの資料は地図帳に資料図として載せられている。そこで複数の資料を活用する問題解決的な学習として設定した。

②単元の構成（３時間扱い）

課題１

人口はどのようなところに集中しているのだろう

４QS を利用した仮説の設定＜本時＞

仮説の検証

ペアワークで仮説が資料と矛盾しないかどうか検証し，世界の人口分布の特徴を表現する。

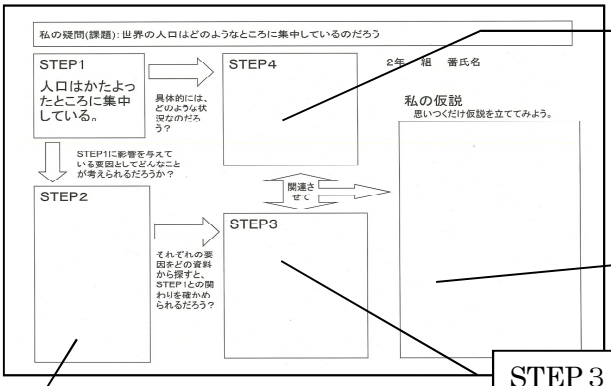
課題２

世界の人口分布の特徴をもとに日本の人口分布をみてみよう。

世界の人口分布と比較することで日本の人口の特徴を理解する

（２）読み取った事象の関連性の考察について

①本時で使用したワークシート＜４ＱＳを利用したワークシート＞



STEP４
人口分布図からどのようなところに人口が集中しているのか読み取らせ，文章で表現させる。（現状を資料から読み取らせる段階）

私の仮説
資料から読み取った必要な情報を組み合わせて，人口が集中する理由について考察を文章で表現させる。（事象の関連性を見いだす段階）

STEP３
要素に関係する資料を選択させ，資料名を記入させる。（適切な資料を選択する段階）

STEP２
地図帳の資料図から人口の集中に関わりそうな要素を記入させる。

このワークシートを利用して，複数の資料の中から個人で資料選択し，組み合わせることで人口が集中する理由を考察させた。本時では個人でワークシートに取り組ませている。次時で仮説が資料と矛盾しないか検証し（ペアワーク）全体で人口分布の特徴を表現させている。

Ⅵ　仮説の検証

今年度の研究仮説は,「資料を適切に読み取り，利用する力（資料活用の能力）を向上させ、この力を利用し，読み取った事象の関連性を考察させることで思考力・判断力・表現力の向上を図ることができる。」である。実践を通してどのような成果があったのか検証したい。

今年度は，４QS を利用することにより資料活用の能力の向上とそれによる思考力・思考力・判断力・表現力の向上をめざした４実践例１の歴史的分野で実施した時点での評価は次のようになった。

１回目課題「田沼の政治は善政だったのか，悪政だったのかジャッジをしよう」

	評　価　規　準	%
STEP４の段階（現状を資料から読み取る）	資料から読み取れる要素を過不足なく読み取っている	5.1%
	資料から一部でも要素を読み取っている	92.3%
	読み取っていない　（事実ではなく，自分の解釈や印象をのべている）	12.8%
私の仮説の段階（事象の関連性を見いだす）	STEP４と複数の資料を関連づけて考察している	69.2%
	STEP４の資料だけをもとに考察している	30.8%
	仮説が資料と矛盾している	0%

この課題で使用した資料は文献の一部（宇下人言「松平定信著」）である。資料を活用する力という点で見ると（STEP4 の段階）４月実施のレポートの状況と比較して資料から一部でも要素を読み取っている生徒が大半となり，この点で向上が見られた。しかし要素を過不足なく読み取っている生徒が 5.1%と少ない。これは提示した資料からは読み取れない事項も盛り込んでいたり，資料に書かれていた内の一部（一言）を取り上げて読み取っていたりする生徒が多かったためである。ここから

①資料になにが書かれているのか十分に検討させる。(時間の保証)

②資料に　書かれていることなのか，また，資料には書かれていない事項も盛り込んでしまっていないのか振り返らせる。(視点の確立)

手立てをとる必要性があることがわかった。

また私の仮説の段階をみると他の資料と STEP４を比較し,事象の関連性を考察している生徒が６９．２％と多くなっている。これは４QS の使用によって資料に基づいた考察に取り組みやすくなったと考えられる。

２回目にあたる，実践例２の評価は以下の通りである。

２回目課題「世界の人口はどのようなところに集中しているのだろう」

	評　価　規　準	%
STEP４の段階（現状を資料から読み取る）	資料から読み取れる要素を過不足なく読み取っている	94.8%
	資料から一部でも要素を読み取っている	2.6%
	読み取っていない　（事実ではなく，自分の解釈や印象をのべている）	2.6%
私の仮説の段階（事象の関連性を見いだす）	STEP４と複数の資料を関連づけて考察している	92.3%
	STEP４の資料だけをもとに考察している	0%
	仮説が資料と矛盾している	7.7%

この２回目の実践で改善が見られた点は次の点である。

〇資料から現状を正確に読み取れるようになった。

〇現状と複数の資料を関連付けて考察できるようになった。

資料の読み取りについては，STEP４（現状を資料から読み取る）の段階,「資料から読み取れる要素を過

不足なく読み取っている」点で向上している。前述のように最初の実践では文献資料の読み取りであり，本実践は資料図の読み取りである。このため正確な比較とはならないが読み取れる要素と自分の解釈や印象とを区別することを意識して資料の読み取りに臨むようになった。

現状と複数の資料を関連付けて考察，については私の仮説（事象の関連性を見いだす）の段階，「STEP４と複数の資料を関連付けて考察している」点が向上している。一つの資料（事象）からのみ考察するのではなく，複数の資料から多角的に考察することができるようになった。

この点では「仮説が資料と矛盾している」生徒が増えており，向上した生徒と苦手とする生徒とに二極化している。苦手とする生徒への手立てを今後取り組んでいく必要がある。このために生徒の力に応じた資料の提示や個別支援等の点で工夫，改善していきたい。

Ⅶ　成果と課題

本実践の結果，資料から現状を正確に読み取る点と現状と複数の資料を関連付けて考察する点で向上が見られた。一方で課題として明らかになった点は次の点である。

●仮説検証を見通したワークシート作りが必要

４QS を利用したワークシートを使用することによって，前述した改善点が見られたが，その一方で次の段階で行うべき仮説検証の段階との整合性がとれなくなることがあった。例えば仮説検証をグループワークや学級全体で話し合いによって練り直し，お互いに検証する際にはスムーズに使用できたが，個で仮説検証を行おうとすると仮説を作る段階でおこなった作業をもう一度おこなうことになり，思考の流れとしては１段階戻るような形になってしまう。社会科として資料を活用した事象の読み取り→根拠をもった自分の仮説づくり→仮説検証の思考の流れがよりスムーズに取り組めるようなワークシート作りをしていく必要がある。

Ⅷ　おわりに

LINE などのソーシャルメディアやテレビなどがごく身近にある環境で生活している生徒たちは，情報に囲まれて生活しているともいえる。情報の受け取りや発信がごく簡単にできるようになっている現在の実社会において，自分の考えを持つというということ自体が難しくなってきているのかもしれない。様々な情報をもとに思考し判断し，さらに表現することはますます重要性を増すことだろう。表現することの中には物事に関わっていく力も含まれる。自分で判断し行動できる力を育成するために今後も研鑽を続けたい。

＜引用文献＞

１）岩田一彦編著（2009）「小学校社会科学習課題の提案と授業設計―習得・活用・探求型授業の展開」明治図書出版株式会社 14 頁

２）小原友行編著(2009)「思考力・判断力・表現力をつける社会科授業デザイン中学校編」　明治図書出版株式会社 12 頁

＜参考文献＞

・唐木清志　西村公孝　藤原孝章　著「社会参画と社会科教育の創造」(2010)　　学文社

・笠井健一・水戸部修治・津田正之・白旗和也・弘前大学教育学部附属小学校　編著「授業における「思考力・判断力・表現力」東洋館出版社（2012）